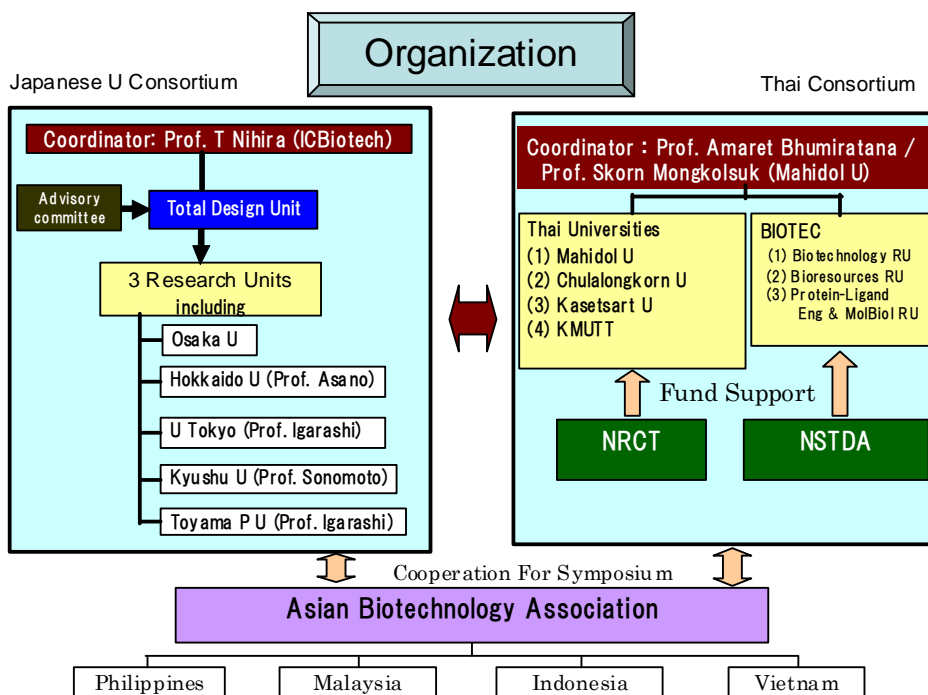


緒言

東南アジアは、新規な物質生産のシーズとなる豊富な生物遺伝子資源（特に微生物遺伝子資源）を有すると共に、工業原料となる豊富な農林産原料資源を有しており、これら生物資源の産業への展開は東南アジア諸国に共通の課題となっている。一方我が国は、世界的に認められた発酵生産の歴史を持ち、先端的なバイオテクノロジー技術を有しているが、遺伝子資源・農林産原料資源は豊富ではない。

近年、生命科学を含む生物学の進展は目覚ましいが、基礎的知見からバイオテクノロジー技術を利用した工業的生産へと発展させる研究と技術、すなわちモノ造りを目指した展開は東南アジア諸国のみならず日本にとっても今後の大きな課題である。

本共同研究は、科学技術振興調整費のアジア科学技術協力の戦略的推進「地域共通課題解決型国際共同研究」の枠組みの中でタイ王国研究者と共同して「東南アジア物造り産業バイオ研究拠点の形成」の下に国際共同研究を行うものであり、東南アジアの共通課題である生物資源の利用展開研究に、タイの生物資源をモデルケースとして我が国とタイの研究者が共同して取り組み、モノ造りのための産業バイオ研究拠点を形成すると共に、関連研究者ネットワークを強化構築し東南アジアにおける将来を見据えた共同研究組織を構築することを目的としている。



本共同研究には、**equal partnership** の精神の下、タイの文部科学省に相当する **National Research Council of Thailand (NRCT)** とタイの科学技術庁に相当する **National Science and Technology Development Agency (NSTDA)** より日本側資金とほぼ同額の資金が投入されており、日本側とタイ側の選りすぐりの研究者が強力なタッグを組み、緊密な共同研究を実施してきている。

本冊子は、日本側研究者とタイ側研究者との対話と議論を触発する場として、タイ生物工学会(**Thai Society for Biotechnology, TSB**)と合同で開催したシンポジウム「**Thailand-Japan Joint Symposium on Bioproduction by Efficient Utilization of Thai Bioresources**」(タイ、マハサラカム市)の記録であり、両国を代表する産業バイオテクノロジー研究者が2006年度より開始した本共同研究の下に成し遂げた成果をまとめたものである。

研究代表者
大阪大学生物工学国際交流センター
仁平 卓也